

製品名: フロチリン-1(6C10)マウスモノクローナル抗体

カタログ番号: AMM11030

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、pH 7.4、0.5% 保護タンパク質、防腐剤として 0.02% 新型防腐剤 N、50% グリセロールを含有。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000
分子量	49kDa

抗原情報

遺伝子名	FN1
別名	FN1; FN; Fibronectin; FN; Cold-insoluble globulin; CIG
遺伝子 ID	2335.0
SwissProt ID	P02751
免疫原	フロチリン-1 の合成ペプチド

背景

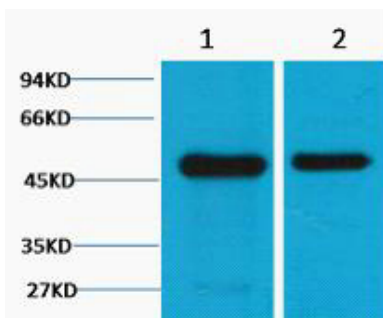
この遺伝子は、血漿中では可溶性の二量体として、細胞表面および細胞外マトリックス中では二量体または多量体として存在する糖

タンパク質であるフィブロネクチンをコードします。コードされているプレプロタンパク質は、タンパク質分解によって成熟タンパク質を生成します。フィブロネクチンは、胚発生、創傷治癒、血液凝固、宿主防御、転移などの細胞接着および遊走過程に関与しています。この遺伝子は選択的スプライシングを受ける3つの領域を有し、20種類の転写バリエーションを生成する可能性があります。そのうち少なくとも1つは、タンパク質分解によるプロセッシングを受けるアイソフォームをコードしています。一部のバリエーションの全長は未解明です。 [RefSeq 提供、2016年1月]、代替製品: 追加のアイソフォームが存在するようです、発達段階: Ugl-Y1、Ugl-Y2、および Ugl-Y3 は、0歳から17歳までの尿中に存在します。、疾患: FN1の欠陥は、フィブロネクチン沈着を伴う糸球体腎炎2型 (GFND2) [MIM: 601894]の原因です。フィブロネクチン沈着を伴う家族性糸球体腎炎またはフィブロネクチン糸球体症としても知られています。GFNDは、遺伝的に異質な常染色体優性遺伝疾患であり、臨床的にはタンパク尿、顕微鏡的血尿、高血圧を特徴とし、10代から40代で末期腎不全に至る。機能: フィブロネクチンは、細胞表面やコラーゲン、フィブリン、ヘパリン、DNA、アクチンなどの様々な化合物に結合し、細胞接着、細胞運動、オプソニン作用、創傷治癒、細胞形状の維持に関与する。TNRとの相互作用は、細胞接着および神経突起伸展の阻害を媒介します。、オンライン情報: フィブロネクチンエントリ, PTM: F13AやTGM2などのトランスグルタミナーゼを介して、グルタミンとリジン残基のイプシロンアミノ基の間に共有結合架橋を形成し、ホモポリマーおよびヘテロポリマー (例: フィブリンコラーゲン-フィブロネクチン、コラーゲン-フィブロネクチンヘテロポリマー) を形成します。、PTM: Thr-2064とThr-2065の両方がグリコシル化されているか、または一方のみがグリコシル化されているかは不明です。、PTM: 硫酸化されています。類似性: 12個のフィブロネクチンI型ドメインを含みます。類似性: 16個のフィブロネクチンIII型ドメインを含みます。類似性: 2個のフィブロネクチンII型ドメインを含みます。、サブユニット: 主に選択的スプライシングを受けた変異体のヘテロ二量体または多量体で、カルボキシル末端付近の2つのジスルフィド結合によって結合している。ホモ二量体も存在しますが、その程度は低い。FBLN1、AMBP、TNR、LGALS3BP、COL13A1と相互作用する。FBLN7と相互作用する。、組織特異性: 血漿FN (可溶性二量体) は肝細胞から分泌される。細胞性FN (二量体または架橋多量体) は線維芽細胞、上皮細胞、その他の細胞種によって産生され、細胞外マトリックスに線維として沈着する。Ugl-Y1、Ugl-Y2、Ugl-Y3は尿中に認められる。、

研究分野

接着斑、ECM-受容体相互作用、アクチンと細胞骨格の調節、がんにおける経路、小細胞肺がん。

画像データ



1) マウス脳組織、2) ラット脳組織 (1:2000に希釈) のウエスタンブロット分析。